

令和元年度 大阪市立新東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

＜全国学力・学習状況調査＞

○中3の国語に関して、全国との平均差が−6.8であった。領域的には、「話す・聞く」は−7、「書く」は−7.8、「読むこと」は−6、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は−4.6と特に「話す・聞く」と「書く」の二領域に課題があることがわかる。

○中3の数学に関して、全国との平均差が−7.8であった。領域的には、「数と式」は−6.8、「図形」は−4.1、「関数」は−10.3、「資料の活用」は−10.8と特に「関数」と「資料の活用」の二領域に課題があることがわかる。

○中3の英語に関して、全国との平均差が−5であった。領域的には「聞くこと」は−5、「読むこと」は−4.2、「書くこと」は−5.9と「書くこと」に課題があることがわかる。

＜チャレンジテスト＞

○中3において大阪府との平均差は、国語−5.1、社会−6、数学−4.2、理科−5.9、英語−6であった。どの教科も−4～6の差がみられる。

＜全国体力・運動能力調査＞

抽出学年の2年生では、男子が握力・50m走・ハンドボール投げで全国、大阪市平均を上回る結果となった。しかし、全体的には体力合計点で−2ではあるが、平均を下回る結果となった。女子では握力・20mシャトルラン・ハンドボール投げで全国・大阪市平均を上回る結果となった。しかし、体力合計点では−1ではあるが、平均を下回る結果となった。

男女ともに柔軟性を測るテストである長座体前屈が最も低い。

【今後に向けて】

○国語では特に言語に関する基本事項の習得に力を入れ、漢字テストを毎時間行うなどの取り組みを継続している。今後さらに基本事項の定着に向けて、丁寧な説明とドリル的な演習を組み合わせて実践を進めたい。

○数学では現在継続している計算力の強化を更に進めるとともに、関数のグラフに関する技能や資料の読み取りの技能を伸ばす工夫が必要である。

○英語ではどの領域においても一定の課題があるので、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のほか、「話すこと」の4技能を伸ばすための授業を進めたい。

○校内において授業研究を更に進め、生徒の学力向上のためにも取り組むべきポイントを議論し、焦点化して実践することが必要である。また、生徒の学力向上のためにも、教員の指導力向上は近々の課題であるので、今後も授業研究、研究討議を重ね、より良い授業を展開できるよう日々研鑽していきたい。

○全国体力・運動能力において、柔軟性に着目した「体づくり運動」を展開し、個々の柔軟性を挙げるとともに、健康に関して柔軟性がることの重要性を促していきたい。

○令和3年度から始まる新学習指導要領をもとに、「主体的で対話的な深い学び」について各教科ともに授業研究を重ね言語活動を中心とするアクティブラーニングを導入した授業を展開できるよう研鑽していくなければならない。